

保護者・学生のためのより詳しい説明

実際の入試問題を使って、この講座の効果をご説明します

7/10

論述ブースト No.4

データ読解論述 —— グラフ・表から「何が言えるか」を論証する

★ 清光学院の講師は、大学教員としてこれまでに皆さんのお子さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何十年も採点し合否判定を行ってきた当事者です。グラフを見て「～であることがわかる」と書くだけの答案と、観察・解釈・限界を区別して論証した答案の評価の差を、採点者として繰り返し目にしてきました。その実感が、この講座の設計に込められています。

1. この講座が有効な入試問題のタイプ

① 実験データ・グラフの考察論述問題

東京大学・京都大学・大阪大学・東京科学大学の生物・化学・物理では、グラフや表から「何が言えるか・言えないか」を論述する問題が出題される。「グラフを見て感じたことを書く」だけの答案は採点者（大学教員）が最も低く評価する典型であり、観察・解釈・推論を区別した答案との差は大きい。

② 相関と因果の区別を問う問題

「この実験データから～という因果関係が証明できるか」という問いは、医学部・生命科学系入試で増加傾向にある。「相関があるから因果がある」という誤論を答案に書く受験生と、「相関と因果は別問題だ」と明示できる受験生では評価が大きく異なる。

③ 医学部・薬学部推薦の口頭試問

「この研究結果をどう解釈するか」という問いは、医学部・薬学部推薦入試の口頭試問で定番である。「観察できること・解釈できること・言えないこと」を区別して語れる受験生は、試験官（大学教員）に「科学的思考力がある」と即座に評価される。

2. 具体的な大学・学部との対応

大学・学部	出題の傾向	本講座との対応
東京大学 理科	実験データの考察・論述問題	観察・解釈・限界の区別が高評価答案の構造を作る
京都大学・大阪大学 医学部・理学部	グラフから「何が言えるか」を問う問題	相関と因果の区別が論述の深みを与える
大阪公立大学・名古屋市立大学 医学部	実験考察の記述問題	「言えないこと」の明示が採点者に科学的思考力を示す
薬学部・生命科学系推薦・総合型選抜（全般）	「この研究結果をどう解釈するか」型の口頭試問	3層の区別が採点者（大学教員）に際立つ回答を生む

3. なぜ差がつくのか・受講後に期待できる変化

データ論述を「グラフを説明する」だけで終わらせている受験生は、採点者が求める「科学的思考力」を示せない。授業の詳細な内容はここでは述べないが、受講後には（1）観察事実・解釈・推論を区別して答案に書ける、（2）「相関があるから因果がある」という誤論を犯さない、（3）口頭試問で「言えること・言えないこと」を明確に語れる、という変化が起きる。

何十年も理科・医学部の答案を採点してきた清光学院の講師陣は、データ論述問題で「グラフの説明答案」と「観察・解釈・限界を区別した答案」の評価の差を採点者として熟知している。その実感が、この講座の根拠である。